

# 鬼末

～中堅学年として  
主体的な姿を～

江戸川区立小岩第四中学校

第11号  
令和6年9月19日発行

## <生徒会役員選挙ポスター>

### 「民主主義」とはなんだろう？ ～生徒会役員選挙～

最近新聞やニュースを騒がしているのが「自民党総裁選」です。現在国会では自民党が多数を占めており、自民党の次の総裁が新しい「総理大臣」となるため注目を集めています。人口が1億人以上いる日本において、すべての人の意見を政治に取り入れることはできません。したがって、民主主義国家として国民が直接選挙を行って国会議員を決め、その国会議員が国民の「代表」として政治を行って来ています。

さて、学校ではどうでしょうか。中学校では「学級委員」や「班長」を推薦していると思います。皆のために頑張れる人や周りの人の信頼を集めた人がクラスや班の「代表」となれるのです。自分自身も誰かを推薦、言い換えれば投票して決めたことですから、どんな結果であっても、その決定には従うことが必要です。もちろん、多数決で決めるので自分の意見が反映されなかったり、正しい決定がなされなかったりすることもあります。それが民主主義なのです。

今週の金曜日に生徒会役員選挙があります。来月は2年生が中心となる生徒会が発足します。ということは、2年生1人1人がこの選挙に対して全力で取り組まなければなりません。立候補者だけが頑張っても、意見や主張を聞く側の気持ちがなければ意味がありません。

残念なことに、現在の日本は、衆議院などの国会議員の選挙において、投票率（投票に行った人の割合）が半分の50%程度しかありません。残り半分の人が1人1票をもつ選挙権を放棄している状態です。「誰に入れても変わらない」、「たった1票で何ができる」、「選挙に行くのがめんどくさい」という声を聞きますが、果たしてそれでよいのでしょうか。

逆に、投票できなかったとしたらと考えてみてください。江戸時代までは選挙はなく、明治時代に入っても裕福な人しか選挙に行けませんでした。今から100年ほど前に男性の普通選挙が実現し、女性にいたっては、戦後になるまで選挙に行けませんでした。投票できないということは、自分たちの意見が全く聞かれず、勝手に政治を行われてしまうことです。知らない誰かの言うことを聞かなくてはならない状態になってよいのでしょうか。

「1人1票しかない」のではなく「1人1票ある」からこそ、自分たちの手で自らが考えることを実現できます。まずは身近な生徒会役員選挙にしっかりと取り組んでください。そして将来、自分が住んでいる地域や日本という国に対しての意見を持ち、自分がどう生きていきたいかを考えるきっかけにしてほしいと思います。（※右側のページに立候補者のポスターを載せました。）



- ★会長候補  
2-2
- ★副会長・書記庶務候補  
2-2  
2-2  
1-2  
1-3  
1-3  
1-3  
1-3
- ★書記庶務候補  
1-1



### ★今後の予定★

- 9月20日(金) ⑤⑥生徒会役員選挙
- 9月23日(月) 振替休日
- 9月25日(水) 能楽鑑賞教室（午前中）
- 9月30日(月) 林間学事前指導
- 10月 1日(火) 都民の日（休み）
- 10月 2日(水)～4日(金) 林間学校
- 10月 7日(月) 朝礼
- 10月 9日(水) 合唱学年練習①
- 10月10日(木) 専門委員会
- 10月11日(金) 中央委員会
- 10月14日(月) スポーツの日
- 10月15日(火) 避難訓練、学年練習②
- 10月16日(水) 四中祭機材・照明リハーサル

